

「赤いグラス」

アイ・ジョージの声が
しつとりと流れてくる
悲しみが
どつと押し寄せる
不実を責めて去ったあの人
「違う」と言っても
聞き入れなかったあの人
去り行く
あの子の後姿に涙した
心は傷だらけだった
志摩ちなみが歌い継ぐ
「赤いグラス」
たまらずあふれる涙

牧
草
泉

でも、志摩ちなみは
そうつと失恋の傷を癒してくれた
悲しい時
「赤いグラス」を何度も聞いた
生きる力をもらった
そうして
荒野を必死で走り続けた
今も聴く「赤いグラス」
「俺の人生に悔いはない」と
荒野に向かつて叫ぶ
この喜び
アイ・ジョージよ、志摩ちなみよ
心から有難う
でも
あの人の思い出が消えることはない

心躍り

あつ あの人だ！
エスカレーターで上がっていく
小柄で小さな肩の流れ、摩るような歩き
あとを追う、角を曲がった
またあとを追う
いない！
どこに行つたのか？
店内を覗く勇氣はなかつた
エスカレーターで降りた
あとを振り返りながら
そして、ふと思ひ出す
「君に似し姿を街に・・・」
想像の世界だつたのか？
いや、現実の世界で見たんだ
啄木は、きつとそうなんだ
やさしくて、目がすごくきれいで

英 語 が 話 せ て ・ ・ ・
あ の 人 の 小 さ な 肩 に ・
梅 の 花 弁 が 落 ち た こ と が あ っ た っ た っ け
幸 福 感 が そ っ と 体 を 包 ん だ

生きるとは？

人生を振り返ると、山あり谷ありだった
他の人にとつては
山は感激そうして幸福だろう
俺にとつては山も不幸だった
でも、ここまで生き永らえてきた
ルービンシュタインは言う
「リサイタルが楽しいのは
目の前の観客席を見ながら弾くことだ
そう、私はあの人のために
弾いているのだと思うからだ」
俺もあの人の面影を抱きしめ
必死で生きてきた
あの人は
俺の不幸に涙してくれた
温かく励ましてくれた
束の間の幸福を喜んでくれた

俺は、あの人の笑顔を思い浮かべて
荒野を駆けた
つまづいては倒れ、涙した
でも、起き上がってまた駆けた
振り返れば平凡な半生だったと思う
でも、これでいいのだ
そう思いながら
今日もユーチューブに身を委ねる
そうして、
ハリー・ポルカーのピアノに酔いしれる